

経営比較分析表（平成30年度決算）

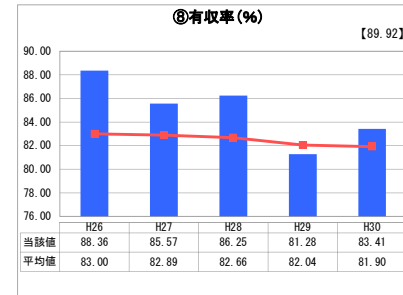
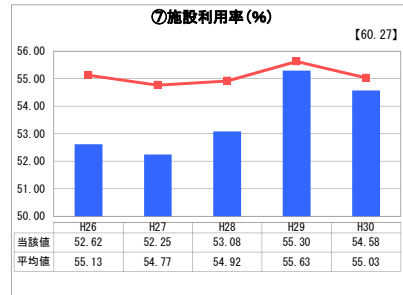
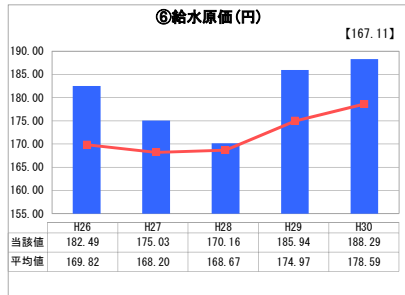
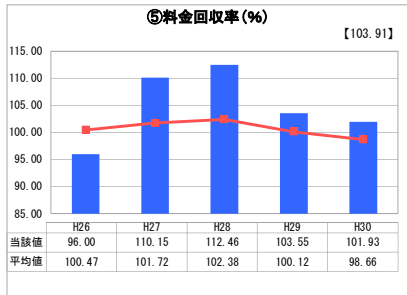
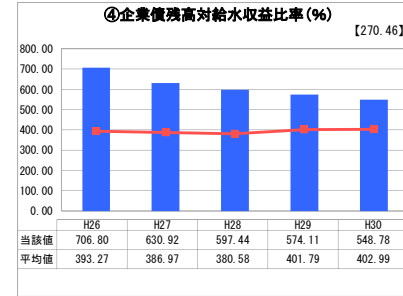
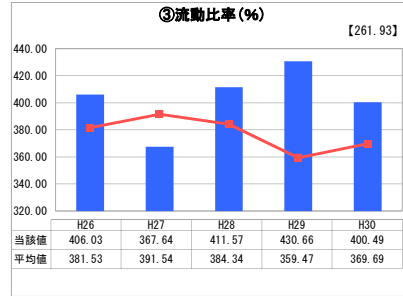
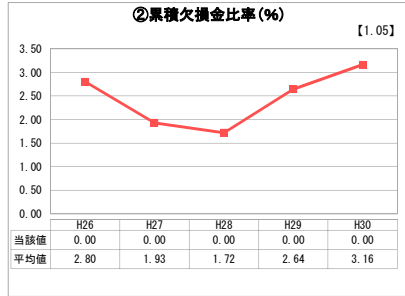
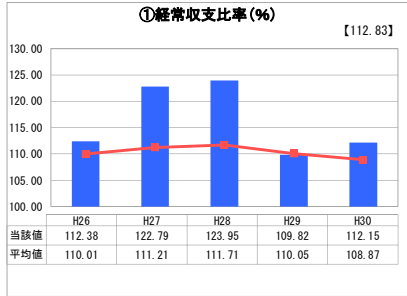
兵庫県 多可町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	67.37	99.31	3,780	

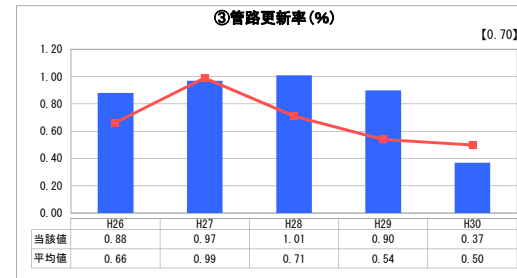
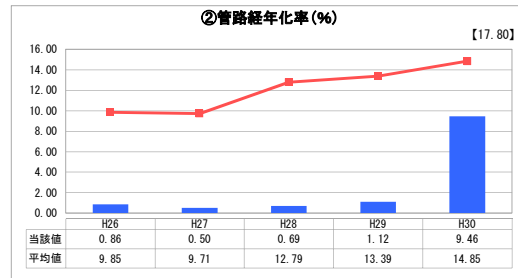
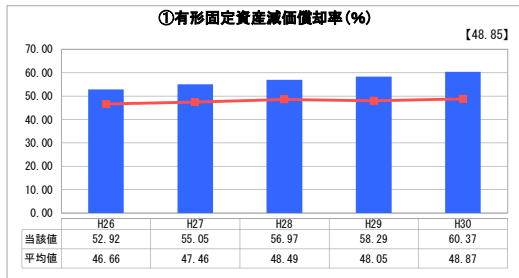
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,885	185.19	112.78
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
20,628	95.78	215.37

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、料金回収率とも100%以上であり経営としては安定している。
 流動比率は400%以上であるが、類似団体と比較しても企業債残高対給水収益比率が高いことが懸念材料としてあげられる。簡易水道事業を水道事業に統合したことで一気に増加したが、近年では償還計画に基づき着実に数字を落としているので、これを継続させたい。
 また、漏水事故多発地域の配水管等更新を急ぎ、有収率を上げ、効率的に原価を抑えることで、さらに各数値の向上に努めたい。

2. 老朽化の状況について

類似団体と比較しても有形固定資産減価償却率が高く、老朽化が進んでいることがうかがえるが、管路更新率は1%以下にとどまっておろ更新率を向上する必要がある。ただ、職員の配置や経営の改善も視野に入れつつ、総合的に判断すべきである。
 また、現状において管路経年化率は類似団体と比較すると低いが、将来、布設時期が重なることから一気に更新が必要となることも考えられるため、経営状況も踏まえ中長期的に計画しなければならない。

全体総括

経営的には現状を維持することで十分とも言えるが、管路更新や資産の老朽化という視点に立てば、現状では物足りないため、経営面の充実と向上をはかり、円滑で計画的な更新を必要とする。
 また、山間地という特性上、施設数が多く管路延長が長いのが現状であり課題である。施設利用率が低いことや人口減少からも、施設及び管路の水需要に応じた規模最適化、ダウンサイジング、統廃合等を効率的に進めていかなければならない。